情報通信

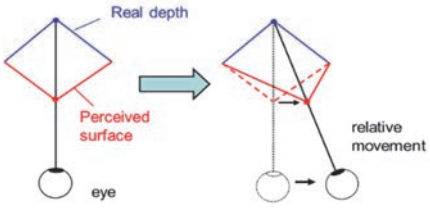
3次元錯視を利用した立体文字看板の制作

用途・応用分野

人目を引く看板広告の制作、展示会やイベントの演出

本技術の特徴・従来技術との比較

- トリックアートに利用されている逆遠近錯視を文字看板に適用する
- 錯視により、3次元の立体文字が歪んで動いているように見える
- これまで、1点ずつ手書きで制作されていた看板を、3Dモデリングとデジタルファブリケーションにより製造可能とした



逆遠近錯視の仕組み

技術の概要

立体文字の3Dモデリング
⇩
2点透視による平面図（逆遠近図形）に変換
⇩
レーザーカッターによる切り出し
⇩
組み立て、設置



3Dモデリング



2点透視による平面図の作成



文字の切り出し、組み立て、支持具で壁に固定

ABCDEFGHI
JKLMNOPQR
STUIVWXYZ

文字フォント



立体文字看板

特許・論文

＜特許＞
「錯視立体文字を用いた広告類」
（特開2014-081550）

＜論文＞
林武文:逆遠近錯視を用いた立体錯視看板, 光学, 53(1), pp.27-29 (2024-01).

研究者

林　武文
総合情報学部　総合情報学科
林武文研究室

お問合わせ先
関西大学 社会連携部 産学官連携センター
TEL：06-6368-1245
MAIL：sangakukan-mm@ml.kandai.jp